

「希望のエリア」はあの日、子どもを守るために始まった



2012年の3月から、毎週金曜日の夜、原発に反対する官邸前の抗議行動が始まりました。週を重ねる毎に参加者は劇的に増え、歩道から溢れんばかりとなりました。そのような状況でも、止むに止まれず小さなお子さんを連れて参加するお父さんお母さんの姿は絶えることがありませんでした。

国会に向かって歩道の右側、憲政会館横のスペースにある「希望のエリア」は、その頃「ファミリーゾーン」と呼ばれていて、お子さん連れのお父さんやお母さんも安心して抗議行動に参加出来るようにと設けられた場所です。

最初は、スピーカーから流れてくる政治家や参加者のスピーチを聞くだけの場所でしたが「私たちにも声を上げさせて欲しい！」という参加者のお母さんの声に応え、独自の抗議エリア「ファミリーエリア」となっていたのです。

2012年の初夏には、福井県の大飯原発の再稼働反対の声が更に高まり、国会周辺には主催者発表で20万人もの人が集まりました。2014年2月からファミリーエリアは「希望のエリア」と新しく名前を変え、現在も毎週金曜日の夜に、「原発いらない！命を守ろう！子どもを守ろう！」と声を上げ続けています。以前に比べると、参加者が少なくなったとはいえ、声を上げ続けている人達がまだまだたくさんいます。今でも毎週金曜日に全国各地100カ所以上で抗議行動が続けられているのです。



絶対にあきらめない

「希望のエリア」は「出来るだけ優しい言葉で、明るく楽しく」をモットーに、初めて抗議に参加される方や、お子さんにとっても居心地のいい場所でありたいと考え、運営しています。誰でも気軽に自由に発言したり、歌ったりしていただける「ゆるさ」も大切にしています。「抗議の場がなぜ心地良いのか」と不思議に感じる人もいるかもしれません。でも、それこそが長く続ける秘訣だと、私たちは考えているのです。

何かに反対し続けるという事には大変なエネルギーが必要です。怒りだけで続けるのは難しく、時にはホッと出来る癒やしも必要なのです。そうして続けるうち、「金曜日の夜にはここに来ないと、1週間が終わった気がしない」という人が増えることとなりました。

「民主主義の夜間学校」に集う人たち

ここでは参加者が主役となり、お互いに学び合い、喜びや悲しみを共有し、一緒にゆるやかに繋がって声を上げ、行動しています。ここに集う人たちは皆さんしっかりと問題意識を持ち、本当によく勉強し、考えています。そうして希望のエリアはいつしか「民主主義の夜間学校」と呼ばれるようになりました。

参加者の方々はとても多彩です。団体に所属している方は少なく、殆どが頼まれもしないのに個人で参加しています。暑い夏も、寒い冬も、お構いなしです。各地の原発を再稼働させようと躍起になっている勢力の巻き返しが高まる中、参加者の思いは熱く、「原発をなくすまで絶対に諦めない！」と頑張っています。

金曜日の夜、どんな方がどんな思いで声を上げているのか、ぜひ知っていただきたいと思います。そして、金曜日をご一緒に「原発いらない！」の声を上げていただければ幸いです。



(文責 国会前希望のエリア スタッフ紫野明日香)